



桃一通信

No. 7 1 4

桃井第一小学校
(3390)3178(代)

令和8年 夏休み号



一学期の学びを実践し、充実した夏休みを

校長 清水 明

早いもので一学期の終業式を迎えました。保護者や地域の皆様には、これまでの本校の教育活動への温かいご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

令和八年度も入学式と始業式で子どもたちが新たな気持ちを確認することで学校生活をスタートさせました。そして、それぞれが目標をもち、互いを思いやる気持ちを少しずつ、学校全体に広げてきました。

ところで、本校では「当たり前のことを当たり前にする」を大切にして教育活動を進めてきています。挨拶をきちんとすること、時間を守ること、話を最後まで聞くこと、人の話に耳を傾けること、相手を思いやること。こうした一つ一つの積み重ねが子どもたちの成長の土台になると考えています。また、子どもたちは学校生活の中でこうした力を少しずつ高めてきました。朝、元気にあいさつをする姿、時間を意識して行動する姿、友達と協力しながら学習や活動に取り組む姿など、多くの場面で子どもたちの成長を見ることができます。毎日の小さな努力は決して目立つものではありませんが、その積み重ねこそが大きな成長につながっています。

また、一学期には水泳学習や体力調査、読書旬間がありました。水泳学習では自分の目標に向かって粘り強く挑戦し、体力調査では自らの体力の様子を知る機会となりました。また、読書旬間では多くの本との出会いを通して、知識や想像力を広げてくれたことでしょう。5年生と6年生はそれぞれ移動教室もありました。自分から進んで行動するとともに仲間と協力しながら生活することを経験し、集団生活の中では、自分だけでなく周囲のことを考えて行動することの大切さを学びました。自分の役割を果たしながら仲間と力を合わせる経験は、二学期からの学校生活にも生かされることでしょう。

全ての出来事を書き切ることはできませんが、このように一学期を振り返ると、子どもたちは教室での学習とともに、多くの体験活動を通して様々なことを学んできたことが分かります。友達と協力することの大切さ、挑戦することの楽しさ、自ら考えて行動する力、そして思いやりの心など、多くのことを育んできました。これらの学びは目には見えなくても、確かな力として子どもたちの中に積み重ねられています。そして、明日から夏休み、学校ではできない経験に出会う貴重な機会です。家族との時間、地域行事への参加、自然との触れ合い、読書や学習への挑戦、興味のあることへの探究など、新しいことへ挑戦し、自分の可能性を広げてほしいと思います。

一方で、「当たり前のことを当たり前に行うこと」も続けてほしいところです。基本的な生活習慣を整えること、家族や地域の方に進んで挨拶をすること、自分の持ち物や部屋を整えること、家庭での役割や手伝いをするなど、どれも当たり前だと思います。この積み重ねが大きな成長につながります。保護者の皆様からの応援もお願いいたします。

二学期が始まれば、子どもたちには多くの活躍の場が待っています。一学期に蓄えた力と夏休みに得た経験や学びを加え、一人一人が自分で考え仲間と協力し、さらに大きく成長していくことを期待しています。また、今後も家庭・地域・学校が力を合わせ、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。安全と健康に十分気を付け、充実した夏休みをお過ごしください。そして二学期の始業式には、一回りも二回りも成長した元気な姿で再会できることを教職員一同心より楽しみにしています。

6年生 着衣水泳

いよいよ子どもたちが待ちに待った夏休みが始まります。海や川、プールなど水遊びや水泳を楽しむ機会も増えてきます。

そこで、水難事故に備え、6年生は7月15日（水）に着衣水泳を行いました。

着衣水泳の目的は以下の通りです。

- ・着衣のまま水に入り、服の重さ、着衣水泳の困難さを体験する。
- ・水難事故防止の方法を身に付ける。



着衣水泳では、衣服や靴を身に着けたまま水に入ること、水を含んだ衣服の重さや、思うように体を動かせないことを実際に体験しました。また、水難事故に遭った際に命を守るための方法として、力を使い過ぎずに長く浮く「背浮き」や、浮き沈みを繰り返しながら呼吸を確保する方法などを練習しました。持参したペットボトルを活用し、浮くための工夫を体験しました。ペットボトルを顔の近くや胸元で抱きかかえることで、顔を水面の上に保ちやすくなり、呼吸を確保しやすくなることを実感していました。

さらに、着ている服の中に空気をためることで浮力が生まれ、体を浮かせる助けになることも学びました。子どもたちは、服の中の空気を逃がさないように姿勢を工夫しながら、浮く練習を行いました。

加えて、履いている運動靴をすぐに脱がずに、浮くための補助として活用できる場合があることも学習しました。普段は重く感じる靴も、状況によっては命を守るための道具になることを知り、驚く様子が見られました。

着衣水泳を行う中で、慌てて泳ごうとするのではなく、落ち着いて浮き、体力を温存しながら助けを待つことの大切さを学びました。

学習後には「服が重くてびっくりした。」「いつものように泳げなかった。」「もしものときは落ち着いて浮くことが大切だと分かった。」などの感想が聞かれ、安全への意識を高める有意義な学習となりました。

毎年水に関わる大きな事故が多いのが現状です。万が一水難事故に遭った際には、落ち着いて浮いて救助を待つなど、学習したことを生かしてほしいと思います。また、事故に遭わないための行動を心がけ、水難事故防止に努めてほしいです。

学校ニュース

- ・第75回杉並区少年剣道大会 小学生団体戦の部 3位 5年 1名
2年 1名

- ・「歯と口の健康に関する作品」入賞

【ポスター】3年生

- 会長賞 : 1名 ※東京都選出
- 金賞 : 1名
- 銀賞 : 2名
- 銅賞 : 5名

【標語】6年生

- 金賞 : 2名
- 銀賞 : 3名
- 銅賞 : 3名

